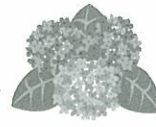


ひゃくちゃん通信

第2号
平成25年 水無月

〒421-1216
東海フーズ株式会社
静岡市葵区羽島大門町7番2号
054-277-1667(代)

初夏の訪れ



今年は各地で、大雪が降り、本当に寒い冬でしたが、早いもので、新緑の緑まぶしい季節となり、雨に洗われたあざやかな花の色が、とても鮮やかに見え、さわやかな初夏の訪れを迎えようとしています。お元気で過ごしていますか？

入塾して社会人



今年春、期待に胸はずませ、なられた方々も、環境が変わった生活に少しずつ慣れてきたころだと思えます。

そんな皆様の日々の成長を、私たちは、これからも心から応援していきたいと思っています。フレッシュフレッシュニヤン

東海フーズの住所

私たちの会社は、安倍川の川を挟んで百草水を製造している工場と、事務所兼出荷をする場所と分かれています。

車で3分〜5分くらいの距離です。主人公のひゃくは、事務所兼出荷作業をする所に現れました。百草水の製造工場では、衛生面上飼うことは、できませんでしたが、運が良いのか、こちらの事務所にウロチョロしていたので、社員になったわけです。安倍川は静岡市では、大きな川で、6月には、鮎釣りが解禁になると、多勢の人たちが、釣りを楽しんで

でいます。

空腹のさなかにいたボクにとって、今、これ以上に期待を感じさせてくれる看板が他に有るでしょうか？



「東海フーズ」これぞ食料が無かったら犯罪ですよ、確実にJAROに文句言えるレベルでしょ？

「ここはまず、建物の中にいる人に気付かれぬ様に、細心の注意をはらって、玄関前に何台かとめてある車を盾にして、抜き足、差し足、忍び足で近づいてみた…」

いくら空腹とはいえ、ボクも猫の

「はぐれ、誰にも気付かれる事なく、難なくあと少しの所までこぎつけた。思わずニヤリと笑みを浮かべたその刹那、後ろからのかん高い声に、全身に電流が走ったー」

「その声の主である小柄なおばちゃんにあっさり見つかった。(汗)こちらに近づいて来て突然しゃがみこんだかと思うと、どぞ食べなさい♡」と言いながらお皿にやまもりとなつたご飯を下に置いた。

「ここ数日間、待ちに待った食料が今、目の前に置かれているのだ…太陽の光に反射したそれはとっても神々しく、さらに風に

のって伝わってくる香りは、鼻から入りしつぽの先までをくすくすさせた。しかも、有難い事に、さっきのおばちゃんももちろん、周囲に人影らしいものは無い…故、兒玉清さん風に言えばまさに「

「アツグーニヤン」



「1センチとボクは食べたいという欲望と、何か異かもしれないという恐怖心とを戦かかせながら少しづつお皿に近づいていった。お皿まで、あと10センチ…8センチ…3センチ…とうとうお皿にもられた。ご飯はボクの鼻先まで来た。もう躊躇する状況では無いのだがボクはそおとそその一粒を口に入れた…」

「超うめー…これ、本当にうめー」

「お前はコギャルか？」

「…お前はコギャルか？」

と自らの脳内でツツコミを入れながら気がつくとかツツガツと吸い込むようにして食べていた。食べながら、何故か涙があふれてきた…「生かれる」「生かれる」「これで何日か生かれる…」

「私にかえり、顔を上げ建物の方に目をやると玄関の奥の方で、さっきのおばちゃん」と体格のいい怖そうなおじさんが、ボクの方を見ながら笑顔で話している姿が見とれた。

「その日以来、ボクは毎日「東海フーズ」に通いつめた。理由は簡単だ。行くとも必ず例のお皿が駐車場のところに用意されているからだ。「慣れというのは恐しい…一週間もするとボクはすっかり東海フーズさんに對する警戒心をといていた。

ただこの日はかりはいつもと勝手が違つ

ていた。いつも有るはずのところに皿が無い。悩んだあげく、あつかましいとは思ったが表から玄関にむかって叫んでみた。「にゃ〜」来ましたけど?」「にゃ〜」来ますよ〜!」「にゃ〜」(もしも〜!)

すると建物の中からおばちゃんと、あの怖そうなおじさんがお皿をもって現れた…しかし、そのお皿は駐車場ではなく玄関の内側に置かれた。二人の視線を感じつつ、空腹に勝てないボクは、はじめて玄関のしきいをまたいだ…だまってお皿にむかい一口、二口食べたところでおもむろにおばちゃんが口を開いた。「お前が、お前が」

いきなりの質問にボクはこたえられな…

「お前が、お前が」いつもお世話になっているのだから、悪くも悪いと思いきな声でこたえた…

「にゃ〜」(お前が)

「お前が、お前が」

「にゃ〜」(ありません)

「にゃ〜」(ありません)

いくつかの質問が続くなか、突然怖そうなおじさんが大きな声でさげんだ

「!?」言葉の意味を理解することに少し時間がかったが、どうやらボクは入社面接をしらぬ間に受けていたらしい…

おじさん何者? 言い終わるやいなや、おじさんはブイッと姿を消したかと思つたら、しばらくすると両脇に大きな荷物をかかえてもどつて来た。その一つを玄関の脇に置き一方的に話しはじめた。「ここがキミのトイレです。近所さんに迷惑をかけないように必ずここですて下さい。」

裏面につづく…



「じゃー」(はは)「
 として、もう一つの荷物を少し離れた場所に置き、「ここ
 がキミのベッドです。しっかりと体を休めて下さい。」
 「じゃー」(はは)

そして細かい諸条件、報酬は日払い制で朝と夕方。たまにラ
 ンダムでボーナスが支給される事も有る。ただし、まだ研修
 生なので食品を扱うスペースには絶対に立ち入らない事
 等々が伝えられた。ここでボクにある疑問が浮かぶ。恐る恐
 るきいてみた。

「ところで私は何をすれば良いですか？」
 おじさんは、今までは少し違ったおだやかな口調で語り
 出した。

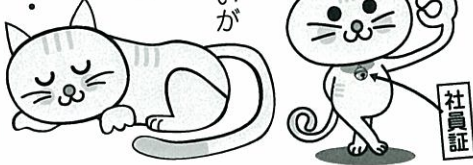
「キミに望む事はね、当社の**「猫猫」**になってもらい
 たい。それから、この社員やお客さんの心の疲れをほぐし
 てもらいたいと思ってる。まあ仕事に慣れるまでは周辺警
 備でもやって下さい。」との事だった。

「じゃー」(ハイ)とりあえず返事をしておいた…

するとおじさんは「**社員証ボク**」といってボクに
 首輪を付けてくれた。続けて「名前が無いと不便だなあ」と
 しゃべりながら、ボクの顔をのぞき込む様にしてしばらく
 考えこんでいた…そしてパッと目を見開いてこう言っ
 た。「君の名前は**東海百草水**で通称**「おやん」**
 だ。「名前の由来は名字は社名から、名前はお客様に一番
 かわいがってもらっている商品からこのことだった
 ので何だか急に偉い猫になった様な気が
 して誇らしく感じた…」この間まで
 路頭に迷っていたボクにとって、
 今の状況はまさに**「奇跡」**
 と言えるだろう。

たしかに世の中にはどこかの駅の駅長まで
 登りつめた**「エリート猫」**もいるらしいが
 ねたまやあこがれなんかはまったく無い。
 一宿一飯の恩義では無いが精一杯頑張ろうと
 心に誓った。

この晩ボクは久しぶりにふかふかベッド
 で深い眠りに付いた… 次号へつづく…



「ひやく」のお薦めコーナー

これからの季節は夏に向けて暑くなります！
 この時期、ボクから売れ筋商品をご紹介します。

夏は何と言っても**百草水**です!!

百草水[®]
 (茶草・緑草)
 全国の
 専門店の皆様の
 ヒット商品
 です!

つるつる
百草水[®]
 ヒアルロン酸
 コラーゲン入り
 お肌つるつる!

青汁
百草水[®]
 今までの青汁と
 違い飲みやすさ
 が好評!



冷して食べるとおいしいヨ!

**氷もちと
 塩氷もち**
 もちもち感
 がある
 ご存知の
 ヒット商品

塩あめ
 おどろく程
 なめらかな
 食感が
 評判です

結び昆布
 ほのかな酸味と
 やわらかさが
 おいしさの
 ヒミツです

百草水
寒天ゼリー
 百草水を
 飲んで
 寒天ゼリー
 を食べて
 健康に!!

新商品

